

# 木曽ヒノキ中目材の有利販売について

坂下・事業課坂下製品事業所 ○上田 増男

田口 周治

本多 利夫

## 要旨

従来、5 mを主に採材されてきた木曽ヒノキの中目材を3 m、4 mに採材し、名古屋の市場に委託販売したところ、東濃、松坂、桜井（吉野）各地域の優良メーカーが、非常に高値で購入し有利販売ができた。

## はじめに

木曽ヒノキの大径材は年々減少傾向にあり、その少ない木曽ヒノキも40%近くは特殊木材用材A・B材である。こうした実態から木曽ヒノキの中目材（28 cm以下）クラスのウエイトが高まる傾向にある。従って、この中目材の有利販売は林産物収入の確保に重要となる。

従来から、木曽ヒノキ中目材は5 m採材が一般的である。これは木曽ヒノキの良質製品は極めて高価であるが、製品の「節」「目切れ」は大きな欠点とされ、価格に大きな差をつける。このことから製材工場では、4 m材製品用原木の5 m採材を従来から希望していたことから5 m採材が行われている。このことは、原木と製品の長さ1 mの差は危険率と見ることができる。

木曽ヒノキを取扱う木曽官材の製品は4 mが基本であり、特殊材の桁盤類や板類以外は、柱が3 m、6 m、土台が5 m、その他角材、鴨居、廻り縁は4 mを基準としている。（表-1）

表-1 木材製品価格表

樹種	材種	製品種	規格			立方当り価格 (円)	備考
			長さ(m)	幅(cm)	厚さ(cm)		
木曽ヒノキ	特殊材	桁盤類	4.6	13.0	21.0	~2,000,000	木曽官材 市売
		板類	7.3	9.0	46.0	~2,600,000	
	一般	柱(背割)	3.0	12.0	12.0	115,000~130,000	#5.9.25  (リンケイ 新聞 #5.9.30)
		柱(芯去)	3.0	12.0	12.0	470,000~600,000	
		柱(芯去)	3.0	10.5	10.5	400,000~500,000	
		柱	6.0	15.0	15.0	150,000~1,800,000	
		土台(芯持)	5.0	12.0	12.0	~115,000	
		建築材	鴨居	4.0	12.0	4.5	
	きそひのき	一般 建築材	鴨居	2.0	12.0	4.5	430,000~600,000
			廻り縁	4.0	5.5	4.5	500,000~800,000
柱(背割)			3.0	10.5	10.5	330,000~500,000	
柱(背割)			3.0	12.0	12.0	400,000~650,000	
きそひのき	一般 建築材	鴨居	4.0	12.0	4.5	560,000~600,000	
		廻り縁	4.0	4.5	4.5	320,000~350,000	

本来良質材の採りにくい中目材を5mに採材する明確な根拠はない。

中目材を良く取扱うE社は、5m材を3mと2mに裁断して使用する場合が多いと述べている。

これらのことから、木曽ヒノキ中目材を一般的素材の長級である3m、4m等に採材し、その有利性を検証してみた。

### 1 検証方法

同一場所から生産された5m材と3m、4m、6m材を市場で販売しその価格を比較した

### 2 素材の生産場所及び生産方法等

生産場所 川上国有林3林班は小班

素材生産方法 請負生産事業

採材指示 比較用の中目材 直材等の良材の採材は、柱適材が3mまたは6m、造作用材は4mとする。

### 3 販売方法及び販売結果

#### (1) 販売方法

比較中目材 東海地区大手人工林原木市場F社へ委託販売

販売年月日 平成5年11月4日

一般5m中目材 一般公売

販売年月日 平成5年11月1日

#### (2) 販売結果

販売実績比較(表-2)

表-2 中目材販売実績比較表

(川上国有林3林班)

様番号	長級 (m)	径級 (cm)	本数	材積 (m <sup>3</sup> )	材積/本数 (m <sup>3</sup> )	販売金額 (円)	販売単価 (円)	販売方法
5,185	3	14	100	15.668	0.156	3,798,810	242,456	一般競争入札 (委託) (H5.11.4)
	4	~						
	6	28						
5,179	5	18 ~ 28	83	25.652	0.309	3,728,000	145,330	一般競争入札 (公売) (H5.11.11)

委託販売結果内訳（表-3）

表-3 中目材委託販売結果内訳表

機番号 5,185号

材種	長級 (m)	径級 (cm)	品等	本数	材積 (m <sup>3</sup> )	販売単価 (円)	平均単価 (円)
中玉	4.00	18	3等	12	1.560	100,000	
		20-22		15	2.604	~	
		24-28		8	2.044	400,000	
		小計		35	6.208		145,000
元玉	4.00	20-22	3等	15	2.740	100,000	
		24-28		12	3.084	~400,000	
		小計		27	5.824		340,000
柱中玉	3.00	16-18	3等	25	2.145	50,000	
		20		3	0.360	~200,000	
		小計		28	2.505		157,000
柱元玉	3.00	14-18	3等	7	0.601	150,000	
		20-22		2	0.285	~300,000	
		小計		9	0.886		197,000
柱元玉	6.00	20	3等	1	0.265	300,000	
		小計		1	0.265		300,000
合 計				100	15.668	販売金額 3,798,810	242,456

通常の一般公売5m中目材の販売単価はm<sup>3</sup>当たり80~150千円である。

3林班は小班の一般公売5m中目材は、表2のとおり販売単価はm<sup>3</sup>当たり145千円である。これに対し委託販売比較用中目材は、販売単価が242千円であり、中玉でも145千円、元玉では4m材で340千円である。

機の販売単価97千円の差は、5,185号機15.668m<sup>3</sup>の比較用中目材が、通常販売した一般公売5,179号機5m中目材に対して1,500千円以上の収入増を上げたことになる。

4 販売結果の原因推察

(1) 販売先からの推察

販売先は、吉野ヒノキや東濃ヒノキを扱う先進製材地域の代表的製材工場である。(表-4)

表-4 販売先一覧表

購入者	所在地	主な生産製品
A社, B社	吉野地域	吉野檜ブランド製品
C社	東濃地域	東濃檜ブランド製品
D社	松坂市	吉野檜・東濃檜ブランド製品

この地域の製材業者は原木調達を東海地区の原木市場に求める傾向にある。人工林ヒノキではあるが、良材であれば木曽ヒノキに匹敵する価格で取引さ

れている。

(2) 木曽ヒノキと東濃ヒノキ等の木柄からの推察

木曽ヒノキは、木曽及び裏木曽地域で生産された天然ヒノキで、比較的白身が強く年輪の詰まった物が良材として好まれる。

これに対し、吉野ヒノキや東濃ヒノキは年輪がはっきりして赤身がある物が好まれる。

今回販売した中目材も比較的赤身があり、年輪については木口の芯がつまり、周辺部は比較的粗な材であった。このことから、吉野ヒノキや東濃ヒノキの特長に似ていたことから、吉野ヒノキや東濃ヒノキの代替えとして求められた。

(3) 天然ヒノキ等の良材不足から中目材の良材が求められていた。

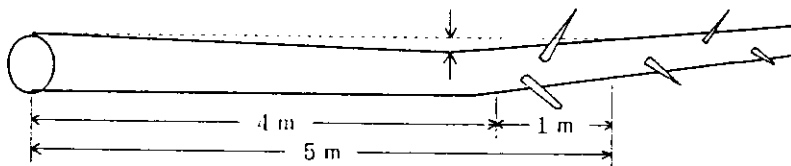
(4) 中目材の3 m、4 m採材が購入者が求める構造用適材に合っていた。

5 おわりに

(1) 天然林のヒノキは、中目材として5 mに採材され、安価で販売されていたが、直材無節等の条件が満たせば、造作用材の4 m採材等で有利販売ができることが確認された。

元で直材は柱適材として3 m・4 m、その他は一般造作材の4 mに採材する。

(2) 一般造作材を5 mから4 mにすることにより、直材、無節の採材が可能となる。



(3) 木曽ヒノキ細物の有効利用の見通しが図られた。

(4) 新たな市場開拓の見通しが立った。

(5) 今後は、更に4 m採材の有利、不利の検討、構造材向け採材、市場ニーズに合った有利販売に努力を注ぐ必要がある。